

平成27年度 学校評価

[各校の重点取組について]

本校では、学校教育目標である「自立と社会参加」を目指し、特別支援学校としての特性を生かした教育活動の充実に努めている。具体的には、一人一、児童生徒の障害の程度と能力を見極め、複数の教員による多面的な理解に基づき、個別の指導計画や支援計画を作成し、保護者とも連携した教育実践また、特別支援教育のセンター校として専門的な指導や相談に応じることのできる教職員の資質の向上に努めている。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	3.3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、個別の教育支援計画を学部・学年で検討することを通して児童生徒の実態と課題を共有化する。 ・児童生徒に関わる事案については、少人数の「育成委員会」を開催し、情報の共有化を図るとともに、素早い対応を検討する。 ・発達段階の考慮、正確な実態把握、繰り返し学習、スモールステップを考慮した指導支援等をキーワードに取り組みを進める。 ・コーディネーターを中心に、「育成会議」を月例で持ち情報交換を行うとともに、教育課程全般の検討を行う。 ・iPadの活用、視覚支援の多用、マカトンサインの活用を図り、授業改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の課題や実態については、「育成委員会」→「育成会議」を経て学部や学年の中での共通理解をおこない、どの教員も同じ対応をすることで児童生徒の成長が見られた。 ・個別の指導計画については、小学部→中学部→高等部と連続性のあるものにしていく必要がある。そのため、教員間の連携が今まで以上に必要である。また、次年度に向けて教育課程の見直しをおこなっている。更に、共通理解の上に立った指導の展開の充実を図る必要がある。 ・ICT機器の活用方法の提案、wi-fi環境の整備によって、全学部で使用している。特に高等部1.2年は就学援助費からipadの購入をおこない、授業で使用をしている。生徒の実態に合った活用の仕方等、実践的な研修の機会、活用できるアプリなどの提案がさらに必要である。 ・児童生徒の実態・教育的ニーズに応じた学習を進めていかなければならないが、児童生徒個々の発達段階と実態把握及び学習の取り組みの経過を崩さないように学部間の引き継ぎ体制と連携をさらに強化して対応していく必要がある。児童生徒の引き継ぎが確実にできるように人的配置をすすめている。 	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3.6
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒間で関わりがとれる環境設定を行い、役割分担や相互評価により自己肯定感を高める指導を行う。 ・出来る限り様々な体験をできるように活動内容を考える。 ・児童生徒にクラスや学部の中での役割を分担させ評価することにより自己肯定感を高められるように取り組んでいる。 ・他校との交流や共同学習を推進し、児童生徒に多様な体験を通じた学びを経験させることで、社会的自立に向けた取り組みを行う。 ・保護者と連絡帳や電話などで日々の連絡を細かに取り合うことで、信頼関係の構築と連携の強化、児童生徒の内面理解に努める。 ・保護者からの質問や相談には、即座に対応し学年・学部の教員間で共通理解を進め、児童生徒が安心して生活できる環境を整える。 ・卒業後の生活を見通した上で在学中の12年間の一貫した指導計画を作成し授業に取り組む。 ・保護者に向けて福祉制度の学習や福祉施設の見学会を実施し、子どもの将来を考える意識を育てていきたい。 ・進路選任教員を配置することで、全学部へのキャリア教育を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りから評価されたり感謝されることにより自己肯定感が高まってきている。授業・行事・給食等の学部の枠を超えた交流を進める必要がある。 ・トライやるウィークの取り組みや学校間交流を通じて、精神的、社会的に自立する態度が養われてきている。受け身の姿勢ではなく、自ら発信していく意識を育てていきたい。 ・保護者と日々の連携を図ることで、相談しやすい雰囲気醸成されてきている。今後は、専任コーディネーターの校内教育相談の充実を図る。 ・進路を見据えた指導を目指して、文書や会議等で教員間の指導についての検討は行われているが、学部間の引き継ぎ、連携については更なる充実を図る必要がある。 ・学部によって保護者の意識の差は感じられる。今後も計画的に進めていきたい。 ・たじかの園や森の宮HPの訓練を見学したり、摂食姿勢等でカンファレンスを受け医療機関と連携できた。今後も、専門機関との連携は必要。 ・福祉施設へ通う卒業生への支援や施設スタッフへの指導をさらに充実させていきたい。 	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	3.6
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・摂食指導を本校の教育活動における重要な柱と位置付け取り組みの充実を図る。 ・給食に実態に応じた食形態や量を工夫するとともに、新献立を積極的に取り入れる。 ・アレルギー除去食や刻み食等の児童生徒に合った給食の提供。 ・必要に応じ、医療機関(主治医、PT、ST、OT等)とのカンファレンス、訓練見学等の取り組みを行い、児童生徒の健康管理と生活能力の向上に努める。 ・昼食時の医療ケア、登下校でのバス等、看護師が対応しやすい体制づくりをおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食指導研修での助言を基に指導方法を修正し、より安定した摂食に繋げることができている。今後も、教員の知識やスキルを向上させる必要がある。 ・アレルギー対応について研修を進め安全な給食の提供ができている。児童生徒の実態に合わせた給食の提供により、食べる楽しみが確保されている。 ・医療機関や専門機関との連携により、児童生徒の健康に配慮が行き届き指導の充実が図れている。また、教員の訓練見学等も増えてきており、学校以外の訓練施設での取り組みが校内の取り組みへ引き継がれるようになってきた。 ・医療ケアを実施する時は、担任、養護教諭、看護師の複数の者がチェックする体制をつくり、ミスを防ぐ。 		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	3.6
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・校内防災組織を再考し、各担当ごとの会議を進める中で、火災避難訓練を実施し、職員の防災意識の高揚を図る。 ・緊急対応マニュアルを策定し、マニュアルに基づく訓練を実施することにより安全確保と危機管理意識の高揚を図る。 ・緊急体制の見直し、インシデント・アクシデント報告の活用により、事故防止に努めるとともに緊急時の体制整備を図る。 ・登下校バスでの危機管理・対応の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災避難訓練では防災組織ごとの対応を心掛けることで、工夫改善の必要性を感じる事ができた。 ・緊急対応マニュアルの策定に合わせ、各担当者ごとの検討を進めたことで、教職員の意識の高揚が図れた。 ・尼崎中央病院、西宮市瓦木消防署の緊急対応研修の実施で、緊急時対応の意識が高まった。また、火災非難訓練を開催で、児童生徒ばかりでなく全教職員にも防災意識が高まった。 ・インシデント・アクシデント報告の活用による事故防止を進めているが、今後も必要に応じ緊急時体制を見直し・改善を図る必要がある。 ・生活介助員、バス乗務員との合同会議を実施し、緊急時の対応マニュアルや指示系統の徹底を図る。 		

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活気に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る	3.7
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・就学前施設や卒業後の入所施設との関係強化を図り、児童生徒の一貫した指導体制の構築、研修を通じた教職員の資質向上に役立てる。 ・保護者アンケートを実施し学校評価の充実に取り組む。 ・保護者との信頼関係を強固にするため、担任ばかりでなく管理職自らも保護者からの相談を受けることのできる雰囲気づくりに努める。 ・教育実習生等の受け入れや学校見学者等の受け入れを積極的にを行い、本校の教育についてのPRを進める。 ・トライやるコンサートを実施し、地域で活動している団体を招聘し、児童生徒、保護者参加の文化的行事に取り組む。 ・携帯メール配信、学校HP、学校便り等を充実させ、学校の様子を積極的に知らせていく。 ・複数担任制の導入で、相談しやすい環境作りと共に、子どもをより多くの教師が知る手立てとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が行う研修・見学会に教職員が進んで参加することにより、連携の強化と職員自らの研鑽に役立っている。 ・これまでの教育相談に加えて保護者アンケートを実施したことで、学校との信頼関係が深まり運営改善に役立っている。 ・担任が保護者とときめ細かな連絡をとれるようになり、また管理職への報告も的確になされるようになってきている。また、管理職への相談も増えてきている。 ・特別支援教育への関心の高まりとともに来校者も増加している。教育実習、介護体験、初任者研修、教育講演会等、年間を通して様々な受け入れを実施している。そのため、児童生徒や教職員の負担となっているが、本校を知ってもらい取り組みでもあるので、今後も続けていくことが大切である。しかし、実施時期については再考の必要性がある。 		

教育目標	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般にわたって「自立と社会参加」を掲げ取り組んでいる。社会参加に向けた自立を「自己選択、自己決定」であると捉えて、学習と生活の両方の場で自己選択・自己決定の機会を設定している。 ・自立と社会参加、生きる力をキーワードに体験的な学習を取り入れたカリキュラムの編成を行う。 ・学校の教育目標を共通理解し教育活動に生かそうと努力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生徒への対応は、とてもきめ細かく実施されていて、基本的な生活習慣を含めて自立を促進する対応が行われていると感じている。多くの生徒が学校へ行く事を楽しみにしている。 ・学校教育目標を達成させていくために、具体的に学部ごとにどのように子供を育てていくのかという学部目標を学校として明らかにし、学校全体で共通理解し、取り組んでいくことがより系統的で具体的な指導につながっていくと考える。また、年度ごとに学部の経営方針を打ち出すことによってさらに具体化されると考える。 ・「自己選択、自己決定」の場をを教師側が設定できているか。生徒の反応に気づいているか。言葉で返せているか。教師が代弁者として活躍しすぎていないか。など、日々自分を振り返らねばと思う。 	

研究テーマ	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に研究テーマについて教職員全体で共通理解を図り、組織として研究を重ね、指導支援に生かす。 ・公開授業や一人一授業の機会を捉え、研究の成果を相互に確認しあう場を設ける。 ・学年で授業の様子をVTR等で振り返り、一人一人に応じた教材の工夫をおこない、授業改善につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ研究の研究テーマを「授業研究」ではなく「全学部共通した研究項目」に変更した。それによって各研究項目にそれぞれの学部教員が所属し、より幅の広い児童生徒の理解に結びつけたい。 ・生徒の出席状況から考えて公開授業を見に行ったり、担任している生徒等の授業を見るのは難しいので、月中行事に公開授業の予定を入れることで、学部内調整し公開授業に多くの教員が参加できるよう取り組んでいる。 	

センター的機能の充実	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
	(1) これまで蓄積してきた専門性やノウハウを生かした、地域の学校への支援の充実 (2) 教育課題の解決や特別支援学校としての今後の方向性等をテーマとした研修・研究の充実 (3) 児童生徒に対する行動・学習支援等の改善に向けて校内研修を実施し、地域支援にも生かせる専門性の向上	3.6
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの初任者研修に加え、新たに教育総合センターとの共催による特別支援教育コーディネーター研修の開催や校内研修の際に小・中学校や近隣の特別支援学校教員の参加を呼び掛けるなどセンター一校としての情報発信を行う。 ・市内の小・中学校に対して巡回相談についてのPRを行い、これまで蓄積してきたノウハウの提供を進める。 ・コーディネーター指導の「つきいち会」の実施で新転任教員、他市特別支援学校教員の研修の場を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の取り組みを広く情報発信することにより、市内の特別支援教育の振興に寄与できる。 ・阪神特別支援学校との合同巡回相談の機会が持て、三者ともに有意義であったので、今年度も続けている。 ・巡回相談を依頼される学校が増えてきており、地域支援については周知されてきている。小・中学校へは市内総会や特別支援学級担任会等へ参加し、巡回相談のPRを実施した。前年度より相談件数が増え、市内支援の必要性を感じた。 ・次期コーディネーターの後継者の育成。 ・学部コーディネーターの時間割を配慮することで、校内支援の幅が広がりがつつある。また、複数名で市内の巡回相談に参加している。 	